



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行人 末吉卓也
1部60円年間共1100円

道標

04年10月10日～05年10月29日
「聖体の年」
【司教区昇格五十周年】
小教区が活性化し
教区が一つとなるように

心からありがとう！教皇様

264代教皇ヨハネ・パウロ2世帰天

平和の使者として駆け抜けた教皇在位の26年



第二百六十四代教皇ヨハネ・パウロ二世が四月二日午後九時五十四分(日本時間三日午前四時五十四分)、長い闘病の末、バチカンの居室で帰天した。八十四歳だった。教皇の葬儀は四月八日午前十時(日本時間同日午後五時)からバチカンのサンピエトロ広場で世界中から駆けつけた大勢の信者に見守られて荘厳に営まれた。国内においては、東京カテドラル聖マリア大聖堂でメモリアルミサ(四月八日午前十一時)がさげられたほか、全国各地で「帰天記念ミサ」がさげられた。教区においては四月六日(水)午後七時から鹿兒島カテドラルで教区主催追悼ミサが、また奄美大島地区では八日(金)聖心教会で追悼ミサがあり、教皇の死を悼むとともに二十六年の長きにわたってその使命達成に邁進した教皇のために感謝の祈りをささげた。

教皇ヨハネ・パウロ二世
本名カロール・ヨゼフ・ボイテイワ。一九二〇年五月十八日、ポーランド・ワヂウイチェに父カロール・ボイテイワ(職業軍人)、母エミリア・カツオルブスカ(教師)の次男として誕生。八歳で母を、その三年後に兄エドモンドを失い、そして二十歳の時に父が他界し、すべての身寄りを失った。十八歳でクラクフの大学に入学しポーランド文学を専攻するが、翌年、ドイツ軍がポーランドに侵入し大学は閉鎖。生活を支え、またドイツへ連行されるのを避けるため石切場で働きながら、勉学と地下演劇集団で演劇活動をする。

この間、司祭職への召命が芽生え、一九四三年「地下神学校」に入学、四年十一月一日、司祭に叙階。ローマに移り神学研究の後、一九四八年神学博士の学位を得る。同年、スタリーニ体制下の祖国に戻りクラクフ近郊で小教区助任司祭を歴任。五年まで大學生担当司祭。その後、クラクフ大神学校及びブルリオン大学神学部で倫理神学教授。

一九五八年七月四日、教皇ピオ十二世により、クラクフ補佐司教に任命。三十八歳にしてポーランドで最も若い司教として、共産主義政府と教会との対立の中で困難な司牧任務を果たす。六二年からの第二バチカン公会議に出席、「現代世界憲章」の編纂において重要な役割を果たした。六四年にパウロ六世によってクラクフ大司教に、

六七年一月には枢機卿に任命される。

ヨハネ・パウロ一世帰天後の教皇選挙の結果、一九七八年十月十六日、第二百六十四代目のローマ教皇に選出され、ヨハネ・パウロ二世と名乗る。五十八歳のその時から二十六年半の長きにわたってカトリック教会を導き、世界平和のために働いた。

【新しい福音宣教】
教皇登位後は、第二バチカン公会議の精神を受け継ぎ、新しい福音宣教を推進。



フリチエル神父

歩み続けた五十年

フリチエル神父金祝を祝う

レデンプトール会のウイヘルム・フリチエル神父(出水教会主任司祭・七十七歳)の司祭叙階五十周年(金祝)を祝う集いが、四月十日(日)出水教会と出水市内のホテルであった。

フリチエル神父は一九二七年十月二十七日、ムイグリップ(旧チエコスロバキア)に生まれる。一九四八

新教皇ベネディクト十六世誕生

ドイツのラッツィンガー枢機卿を選出



四月十八日からバチカンで開かれていた教皇選挙(コンクラーベ)は、十九日、ヨゼフ・ラッツィンガー枢機卿団長(七十八歳)を新教皇に選出したと発表した。

教皇名はベネディクト十六世。新教皇ベネディクト十六世は、四月に、また教区における新教皇のため一九二七年四月十六日、ドイツ

四月十八日からバチカンで開かれていた教皇選挙(コンクラーベ)は、十九日、ヨゼフ・ラッツィンガー枢機卿団長(七十八歳)を新教皇に選出したと発表した。

教皇名はベネディクト十六世。新教皇ベネディクト十六世は、四月に、また教区における新教皇のため一九二七年四月十六日、ドイツ

進。聖職者、奉獻生活者、信徒のそれぞれの使徒職に光を当て、青少年、家族、病者、女性、職業人などさまざまな立場の人にキリスト者としての自覚を促した。

【空飛ぶ教皇】
全教会の指導者としての自覚から、また、国や民族、宗教を超えた対話を目指して、平和の使者として積極的に世界各国を歴訪し、その地のカトリック信者は無数のこと、多くの政治的リーダー、諸宗教の指導者との対話・会見を持つた。

【和解と赦しの使徒】
紀元二〇〇〇年には大聖年の開幕を告げ、これを機会に世界中のキリスト者に回心と償い、赦しと和解を呼びかけ、過去の歴史の中でカトリック教会の子らが犯したさまざまな罪を認め公式に謝罪した。赦しと

訪ねた国は百三十三か国に及び「空飛ぶ教皇」との愛称で親しまれた。空港で大地に接吻する姿は、その国と人々への尊敬と愛を示すしぐさとして有名であった。

【愛と命の文明】
「死の文明」が広がる現代において「愛の文明」の構築を訴えた教皇は、すべての人々の命と人権を擁護、さまざまな闘争に揺れ動く世界に向けて、戦争や暴力には勇気ある反対の声を上げ、常に平和への力強いアピールを発し続けて強い影響を与えた。

教区主催追悼ミサ
四月六日(水)午後七時から鹿兒島カテドラルで

年にレデンプトール会入会。翌年初誓願宣立、一九五五年四月十一日ミュンヘンの聖アンナ教会で司祭に叙階された。一九五六年一月に来日、その後、出水、加世田、大口、岡前、愛宕、入来の教会で働き現在に至る。

午前十一時からささげられた感謝のミサには、地元の水崎から神父の金祝を祝うために駆けつけるなど

七十人の参列があった。六人の司祭の共同司式でささげられたミサで説教したムイベル神父(谷山教会主任)はフリチエル神父のソビエトでの強制労働や教会の変革期の苦勞、外国人ならではの言葉の苦勞などを振り返り、それでも秘跡、教会、修道会に對しての忠実さは変わらなかったと神父の実直な人柄を紹介した。聖堂内には家庭的で温かい雰囲気、また

ささげられた教区主催の「教皇ヨハネ・パウロ二世追悼ミサ」(系水司教司式)には信者、市民五百人が参列した。また朝十時からカテドラル正面に設けられた記帳所にも多くの市民が訪れ、教皇の死を悼んだ。

追悼ミサで説教した系水司教は、教皇のこれまでの働きを、特に日本、鹿兒島に關連するものを紹介し、その働きの偉大さを伝えた。その上で司教は「四百五十六年ぶりにイタリア人以外から、そしてポーランドから選出された教皇は実に摂理的だったと思う。キリストと教会に忠実だった教皇は自由のために、そしていのちの擁護のために精いっぱい働かれた。教皇を見習い、私たちも福音宣教に励まねばならないと思う」と信者たちにメッセージを贈った。

また奄美大島地区では八日(金)に追悼ミサをささげ、六百人も信者が聖心教会聖堂を埋め尽くし、偉大な働きを残した教皇に別れを告げた。

フリチエル神父の心を込めてミサをささげる美しい姿があった。

ミサ後はホテルで祝賀会が催され、神父は信者たちから温かい祝福を受け、会場で挨拶した神父は、レデンプトール会との出逢いやこれまでの思い出を紹介するとともに、「司祭になれたのは母親の熱心な祈りのおかげだった」と語り、司祭の召命には家族の祈りが大切だと結んだ。

五百人が集い汗を流す

復活祭に奄美で合同運動会

古仁屋を除く奄美大島の五つの小教区(笠利、龍郷、大熊、聖心、古田町、小宿)では、今年の復活祭を合同で記念しまた親睦の運動会を開催した。



久しぶりの合同運動会

奄美大島地区では名瀬地区が中心となつて一九六九年から十一年間、復活祭の行事として運動会を開催していたが、諸事情から中止していた。今回のミサ後の運動会は大

熊小教区の呼びかけに他の小教区が応える形で実現し、五百人もの信者が集まった。あいにくの雨で会場を浦上教会から朝日小学校体育館に移しての開催となつたが、十一時から復活祭のミサに参列し、昼食後徒歩競争や輪投げ、リレーなど白熱した勝負が展開された。

中高生春の巡礼

天草を訪ねる

春休み恒例の教区主催による中高生巡礼が今年も三月二十九日(火)から三十一日(木)まで、男子十九名、女子十名の参加で行われた。今回は、「天草の信仰を探る」というテーマ

で、同地を訪れた。泉神父(鴨池)を団長に、石田神父(母間)、末吉神父(ザビエル)も同行して、崎津天主堂、大江天主堂、天草切支丹館、天草コレジオ館などを巡礼した。崎津教会の信者さんが営む「みなどや別館」で宿泊し、暖かいもてなしを受けながら、アルメイダ以来のキリシタン

新委員で初会合

司祭評議会総会

四月十九日(火)、司教の諮問機関である司祭評議会総会が教区本部で開かれた。今回は、任期満了に伴う選挙で選ばれた新しい評議員による最初の総会で、事務局長、常任委員の選挙の後、終身助祭、祭壇奉仕者、朗読奉仕者、聖体奉仕者などの「小教区における奉仕職」について検討された。信者一人ひとりが、一人一役という意識を高めなければ小教区は活性化しないとを「したい」と主任司祭は語った。

田代君小神学院入学

四月五日(火)、長崎カトリック神学院(山田良秋院長)に、ヨゼフ田代竜之君(赤木名教会)を含む七人の中学一年生が入学した。

三人が修道会へ

ザビエル教会

ザビエル教会から若松真紀さん、松崎恵子さん、二田奈津子さんの三人が召

高齢者の集い

信徒有志で組織する高齢者対策準備室「ゆらいあい」では、六月十一日(土)「高齢者の集い」を開催することにし、今、多くの人の出席を呼びかけている。集いは聖母寮

(司教館隣)で午前十一時から午後三時まで開かれ、司教ミサ、分かち合い、血圧測定、健康相談などがある。費用は昼食代を含み一人当り五百円。送迎も相談に応じるとのこと。連絡は押川龍夫さん(☎〇九九-一四七-七五九三)まで。

修道会便り

▼シヨファイユの幼きイエズス修道会

命の呼びかけにこたえ、この春、シヨファイユの幼きイエズス修道会へ入会した。同教会から一度に三人の志願者が誕生するのは初めてのこと。

小出恵美子修道女に代わり日本管区管区長に池尻ひとみ修道女
▼名瀬修道院
新院長に押川リッコ修道女
▼希望の星学園園長
新園長に宮原マツ子修道女が就任(クリスト・ロア会)

聖体永久礼拝



一月から聖体礼拝

―谷山教会―

聖母月最初の当番は谷山教会(主任司祭・ムーベ

ルガ神父)。信徒数八〇四。教区でもザビエル教会、聖心教会に次ぐ信徒数を誇り、大松

神父と有馬神父(ともにレデンプトール会)も協力司祭と



して司牧を助けている。

谷山教会では、聖体の年が始まってすぐ、信徒の一部からあがった聖体永久礼拝を希望する声にこたえ、すでに今年の一月から毎週木曜日に実施している。大松神父は「日々の信仰生活のための力を、ご聖体を通していただき、それぞれの生活の場で活かして欲しい」とのこと。このほかに毎週金曜日、「ノベナ」と言われる祈りの集いも行っている。

指宿教会。信徒数八三。主任司祭は牧山田一神父(教区司祭)で、隣接されている白百合幼稚園の園長も務めている。

指宿教会信徒は先に出版された故教皇ヨハネ・パウロ二世の使徒的書簡「主よ、一緒にお泊まりください」を購入し、ミサ後や自宅で読んでいた。また主任司祭も説教などことあるごとに「聖体の大切さを信徒に伝えている。」

「指宿教会では信徒に高齢者が多く、聖体礼拝も長時間はできない。信者と話し合いつつ、できるだけこの

から毎月行っている模様だが「まだまだ聖体礼拝に対する関心が薄い。これを機会に普段から聖体礼拝をするよう意識付けたい」と主任司祭は期待している。今回の聖体礼拝は大熊教会に巡回教会の信徒も集まつて行い、班ごとに担当する時間帯を区切って行う予定である。

と主任司祭は語った。
ご聖体を伝えたい
―聖心教会―

聖体永久礼拝

29日(日)ミサ後

聖母月の最後、キリストの聖体の主日に聖体礼拝が行われるのは、名瀬聖心教会。名瀬市の中心部に位置するこの名瀬小教区は信徒数八八二で、鹿児島教区ではザビエル教会に次ぐ信徒数の多い教会。主任司祭は中野裕明神父(教区司祭)。

聖心教会では、以前から第一と第三日曜日のミサ後と第二と第四日曜日の午後八時から聖体賛美式を行ってきいている。

使徒的書簡学習

―指宿教会―

聖体永久礼拝

8日(日)ミサ後

続いて、主の昇天の祭日に聖体礼拝を行うのは、



「指宿教会では信徒に高齢者が多く、聖体礼拝も長時間はできない。信者と話し合いつつ、できるだけこの

に続けて、三位一体の主日に聖体礼拝が行われるのは、小宿教会。昨年十月、より充実した司牧を行うために設立された小宿小教区は、小宿教会を中心に、知

名瀬、根瀬部、大和、大瀬、戸田と五つの巡回教会を含め信徒数三四七で、主任司祭は木村敏彦神父(教区司祭)。

小宿教会での聖体礼拝は、巡回教会の信徒も一緒に集まり、主日のミサ後十時半から午後三時まで聖体礼拝を行い、その後聖体賛美式で締めくくると予定だ。「信徒達もこのような聖体礼拝式は初めてなので皆関心を持っていて。これを機会に聖体訪問の重要性を伝えて、信徒がいつでも教会に来て

木曜日
の賛美式
の参加者
は二十人
ほどだそ
うで、中
野神父は
「まだまだ
だ信徒のご聖体に対する意
識は薄い。ご聖体がいとも
共にいてくださることを確
認し、もっと親想してほし
い」と信徒に促している。
また主任司祭は「説教
などを通して、もっと信徒
の日常生活に福音の光を与
える努力をしたい」と語り、
そんな思いもあってか、聖
心教会のホームページも作
成してメッセージを発信し
ている。
<http://catholicazamiko.rochurch.com/home.html>

郡山神父と行くルルド・ローマ・アシジ9日間
日程：8月22日(月)～30日(火) 同行：郡山健次郎神父(志布志教会)
巡礼地：ルルド・ローマ・アシジ
※料金・日程詳細・申込方法については下記までお問い合わせ下さい。
(株)グローバルユースビューロー鹿児島支店
☎099-222-2175 FAX099-223-1757

殉教者の堅固な意志に感動

中高生の天草巡礼の思い出

参加者の感想文から(部分)
 「二日目は、いろいろなところを見学することができました。最初に崎津天主堂に行きました。びっくりしたところは、ゆかがたためで、木造の教会で歴史ある教会だったことです。(中略) 根引山で十字架の道行をしました。山で十字架の道行ができるのはびっくりしました」(加治原誠 中二 ザビエル教会)
 「僕の巡礼の楽しみは二つあります。一つは、色々なものを見てまわるのと、もう一つは、他の教会から来る人と友達になることです。今年もまた友達が増えました」(奥 大地 中三 古田町教会)

「自分は今回が初めての巡礼だったけど、楽しかったです。あと、大江教会のシスターが言った『純粋な悪人はいない、純粋な善人もいない』と言ったのが、心に残っています」(山口宏典 中二 古田町教会)



元気いっぱいの参加者たち

※このシスターの言葉を聞いた参加者は、他に三人いました。
 「洗礼を受けたのも三か月前で他の人に比べたら知らぬ間に驚き、同時に喜びの気持ち

らないこともたくさんあったけど、この三日間で本当にいろいろな分かったし、参加してよかったです。いつもは全然おとなしくない男子もお祈りになったらすごく真面目で話も真剣に聞いていてびっくりしました」(中之園由香 高二 鴨池教会)

「私がこの時代に生きていたら、キリスト教を捨てずにこのような残酷な弾圧に耐えることができるのかと思ひ、今の私では胸を張ってキリスト信者であることを訴える自信がまだ少し足りないように思われまして。しかし私はこの巡礼に参加するたびに確実に信仰は強くなっていると思ひます」(石神 恵 高三 入来教会)

「きびしい迫害を受ける中であつても『隠れ切支丹』となつて、子安観音をマリア観音として拝んだり、仏像の背に十字架をきざみ、祈りを捧げたことに、一番驚き、同時に喜びの気持ち



定価二、三〇〇円

廣瀬敦子著 サンパウロ発行 『よみがえる明治の宣教師・ハルブ神父の生涯』

この本は、一八八九年(明治二十二年)パリ外国宣教会の宣教師として来日したハルブ神父の生涯を書いたもの。神父は、長崎に上陸し、大分、臼杵、奄美大島、長崎の黒崎、天草の崎津で布教活動をした。在日五十六年、八十歳で帰天した神父の生涯が約四百頁の中に活写されている。鹿兒島教区について、奄美大島における二十七年間の布教活動の詳細な記録に加えて、ラゲ神父のエピソードなども紹介されている。



な女性。

笑顔で架け橋に 本部に新職員

「趣味は出会いです」と明るく話すのは森章子さん(玉里教会)。丑年生まれ、笑顔がまぶしい。素敵

「趣味は出会いです」と明るく話すのは森章子さん(玉里教会)。丑年生まれ、笑顔がまぶしい。素敵

「趣味は出会いです」と明るく話すのは森章子さん(玉里教会)。丑年生まれ、笑顔がまぶしい。素敵

「趣味は出会いです」と明るく話すのは森章子さん(玉里教会)。丑年生まれ、笑顔がまぶしい。素敵

「趣味は出会いです」と明るく話すのは森章子さん(玉里教会)。丑年生まれ、笑顔がまぶしい。素敵

会計事務所勤務の経験を持つ彼女は、この四月から教区本部の新職員として会計を担当している。人と接するのが大好きな彼女。その趣味?を遺憾なく発揮し、青年会や教会活動でも人懐っこい笑顔を振りまいて、周りの人を和ませている。そんな彼女は国内での出会いに飽き足ら

「あなたならどうするの?」
 イグナチオから「あなたの役目です」と言われたに従って、「はい」と従ったザビエルが苦難の航海を終えてインドのゴアにたどり着いたのは一五四二年の五月六日でした。通常でも半年はかかるリスボンからゴアまでの航路でしたが、天候不良やさまざまな苦難で一年余りかかったのです。
 ザビエルはゴアで、午前中は毎日病人を見舞い、その世話をし、その後、小さな鐘を奏し

「あなたならどうするの?」
 そうに鳴らしながら町中の路地を回って子供達を集め聖母像の前まで連れて行って、教理と聖歌を教えていたそうです。教理は現地のことを使った歌にして教えていたそうです。純粋な子供達によりよく伝わるように熱意を持って工夫していたんですね。
 そんなザビエルの熱意が日本への宣教を駆り立てます。ザビエルと出会ったヤジロウが洗礼を受

「友達千作ろう」と昨年一年間ニュージールランドへワーキングホリデーに出かけていた。ニュージールランドのユースホステルで働きながら持ち前の積極性と笑顔で世界中から来るいろんな人と接し、人間の温かさやニュージールランドの素晴らしい自然に包まれた素晴らしい体験をしてきた

「教区本部で働くことが今までお世話になった多くの人に恩返しできたらしいな」と話す彼女は「みんなの架け橋になれば」と願いつつ、鹿兒島のあまり広い空をニュージールランドの広い空に見立てて優雅にのんびり自転車で通勤している。

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

鹿兒島 徳永ノブ子
 パパ様に祈り捧げる春の宵
 (評) 結句の「春の宵」が追憶式を荘厳にした佳作

純心学園 山頭信子
 復活節法王様は召されたり
 (評) 「召されたり」ですべてを表白しつよい。

名瀬 松畑義弘
 葉桜の影の乱れや時みち
 出水 遠竹睦郎
 不知火の海は四月の春の色

短歌 (思川短歌会作品)

鹿兒島 春山マリ子
 窓を打つ雨の水玉冷え冷えと
 鹿兒島 本城 愛
 嫁と立つ桜吹雪の基地暮るる

鹿兒島 前田儀子
 自らを省みて坐せる聖堂に百合の吐く息つよく浮遊す
 (評) 四句の「百合の吐く息」は作者自身の表白でもあり尊い歌

古仁屋 豊島忠司
 白鳩が追悼ミサに放たれてサンピエ

短歌 (思川短歌会作品)

鹿兒島 春山マリ子
 トロ寺院の空に羽ばたく
 出水 遠竹睦郎
 桜咲く春日にいととき姫の娘は晴れて高校の門をくぐりたり

阿久根 中津濱フサエ
 さくら咲く聖園の庭に座し給ふマリアの姿神しく光る
 鹿兒島 春山マリ子
 天国に近い所に来たものの満たされていても迷いもありぬ

大口 森
 博伸不知火の岸辺の波にくちつさむオロロンバイのあの子守唄
 鹿兒島 田平新太郎
 諸人の生命尊ぶ法王のときる程の聲ぞ偲はぬ

集い 婚姻の秘跡を深める集い
 5月27日(金) 19時30分~5月29日(日) 18時 マリア山荘
 すべての夫婦(一人での参加は不可・どちらかが未婚者でも可) 5月20日(金) 申込切
 連絡先: 長山登志男(宮崎教会) 自宅TEL0985-73-0874・携帯TEL090-7292-6021/ 郡山健次郎(志布志教会) TEL0994-72-0720・携帯TEL090-8832-5160

黙想会「福音に生きる回心」 5月27日(金) 10時~15時 教区本部二階会議室 参加費: 無料 講師: 昌川信雄神父(大阪セナートス指導司祭) ※どなたでも参加できます。主催: レジオ・マリエ鹿兒島コミチウム (川水☎099-226-4390 直☎099-267-7141)

スピリチュアル研修会 6月18日(土) 14時~17時/19日(日) 9時30分~16時 鹿兒島市民文化ホール第2会議室(5階) 研修費: 6,000円 講師: W・キップス神父(臨床パストラルケア研修センター所長) 申込先: 奥村律子(☎099-282-2926) / 福沢智子(☎0997-56-6167)

カトリック新聞
 へえ、日本の教会は今こうなんだ・・・ ザビエル
 カトリック新聞は、日本のカトリック教会唯一の週刊全国紙です。全国、海外の購読者様のお手元へ毎週直送いたします。また、全国のサンパウロ・女子パウロ会書店でも販売しております。
 1部本体価格150円(税・送料別) 購読料金(前納、税・送料込) 半年4740円・1年9480円
 見本紙贈呈いたします
 〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社 TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodoku@cwjpn.com